

「公印省略」

30農林試第7751号
平成31年3月26日

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第9号

麦類赤かび病の防除について

麦類の赤かび病対策は、出穂期後に薬剤防除することが効果的です。麦類の出穂期は平年より早いと予想されていますので、適期防除に努めてください。

- 1 対象作物：小麦、大麦
- 2 病虫害名：赤かび病
- 3 生育状況および気象情報
 - (1) 農林業総合試験場発表の麦類の出穂期（3月20日発表）は、今後の気温が平年並で経過した場合、11月20日は種の小麦で9～13日程度早く、11月26日は種の大麦で10～13日早いと予想されている（第1表）。
 - (2) 福岡管区気象台の1か月予報（3月21日発表）によると、向こう1か月の平均気温は3月23～29日は平年並か低く、3月30日～4月5日は平年並か高く、4月6～19日は平年か高いとされている。また、降水量は平年並～少ないとされている。

第1表 農林業総合試験場における麦類の出穂期（平成31年3月20日発表）

麦種	品種名	播種期 (月日)	予想出穂期 (月日)			調査地点
			本年	平年差	前年差	
小麦	シロガネコムギ	11/20	3/29	-9	-10	大木町
	チクゴイズミ		3/30	-10	-13	筑紫野市
	ちくしW2号 (ラー麦)		3/26	-11	-12	大木町
			3/29	-10	-13	筑紫野市
大麦	はるしずく	11/26	3/24	-11	-12	大木町
	ほうしゅん		3/28	-12	-13	筑紫野市

注1) 平年値はH20～H29年播の平均値。

注2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

注3) 予想出穂期は、今後の気温が平年並で推移した場合の出穂期。

(過去の播種期および出芽期から出穂期までの積算温度と、これまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。)

4 防除対策

- (1) 薬剤防除は、小麦と裸麦（開花受粉性）では開花期（出穂後7～10日）、閉花受粉性の二条大麦では、葯骸が押し出されてくる穂揃期後約10日（出穂後12～14日）に実施する。
- (2) 降雨や曇天が続き、多発が予想される場合は、1回目防除の7～10日後に2回目の防除を行う。
- (3) 出穂期は、播種日、品種および今後の気温の変動等により異なるので、第1表を参考に、ほ場ごとの出穂状況を把握し、適期防除に努める。
- (4) 液剤は散布後乾くと降雨があっても防除効果は高いが、粉剤は散布後6時間以内に降雨があった場合は効果が低下するので、降雨の合間に薬剤防除を行う場合は、気象情報に注意する。
- (5) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる薬剤が多いので注意する。
また、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。



小麦赤かび病の発生状況（左：小穂、右：穂全体）

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況